

奈良女大家政 ○星野久, 山田知子

目的. 本研究は標題の通り, 「家政」に焦点を置いた家族関係論である. すなわち, 家政学の目標を「家庭生活を中心とした人と環境の相互作用の解明並びに生活の向上と価値の創造」と要約し, この生活集団の基本的社会関係を家族諸関係に置いて, 通史的, 通文化的に再編するとともに, 今日の家族変動にも理論的・臨床的対応を可能ならしめようという試みである.

方法. 上記目的に則して, 昨年度発表主題 (農家世帯における工業化の影響について—第1報—) の成果を踏まえて理論的体系的に整備する. またその実証のために, 文献研究並びに農村～都市世帯に対する意識及び実態の調査研究を進める. 現代社会が直面する家族諸問題の解明と適応策をも検討する.

成果. ①家政機能を共同にする日常生活の基本的な単位的集団は世帯 (house-hold) である. 世帯の構成要素は, 主に家族諸関係 (血縁及び婚姻関係) から成るが, 非血縁を包含して現れる場合も多い. ②家政的ニーズは広義の福祉対象であり, その達成過程において役割を配分された成員間の相互作用の結果, 生産力の諸段階と照応した家庭観が形成される. ③それゆえ, 世帯は家族諸関係の組み合わせのみでなく, 独自の家庭観を構造的特色として典型的に現象する. すなわち, I. 血族共同態 (的世帯) II. 傍系親族的世帯 III. 直系親族的世帯 IV. 核家族的世帯等である. ④今年度は, 以上の諸類型の中から III～IV への変動過程に焦点を当てて, インパクト要因並びにこれと照応する生産力の発達状況, 家政機能及び家庭観の変化等を動的に実証する. (昭和58～59年度科研助成研究)